

大雨に対応した病害対策について

今年の梅雨は小雨で経過していましたが、7月4日に台風3号が通過し、翌5日からの降水量が非常に多く、冠水や多雨に伴う細菌性の病害が発生しやすい条件となっています。特に水稻の白葉枯病、白ネギの軟腐病は注意が必要です。今後も梅雨明けまでの短時間大雨や、梅雨明け後の気温上昇等により、細菌性の病害による被害が拡大する恐れがあります。速やかな防除に努めましょう。

1. 多発が予想される病害とその防除対策

1) 水稻

○白葉枯病

台風が通過し、その後の集中豪雨で河川が氾濫した地域もあり、白葉枯病が発生しやすくなっています。特に短時間大雨により冠水すると白葉枯病の発生が増加しますので、注意が必要です。

常習発生地域や冠水した地域では、いもち病との同時防除を兼ねてプロベナゾール粒剤の本田処理を行い、感染防止に努めましょう。

2) ネギ（白ネギ）

○軟腐病

台風による株の傷および多雨による土壌の跳ね上げに加え、圃場が多湿、排水不良となり、発病しやすい条件となっているため注意が必要です。予防として発病前からのプロベナゾール粒剤の散布を実施してください。なお、プロベナゾール粒剤による予防を実施している圃場でも、多雨により残効が短くなることが予想されますので、オキシリニック酸水和剤等で追加防除を行ってください。

3) その他一般的事項

○細菌性病害（斑点細菌病、軟腐病、カンキツかいよう病など）

台風による風雨とその後の多雨で感染、発病のリスクが高まっています。今後降雨が続くと急激に蔓延する恐れがありますので、防除を徹底してください。

2. 留意点

- 1) 病害は施肥量の過不足により発生が拡大する場合がありますので、適正施肥に心がける。
- 2) 排水対策を十分に行う。
- 3) 薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)

